



東アジアの歴史的文字を横断検索 「史的文字データベース連携検索システム」

奈良文化財研究所では、2018年より文字画像データベースの連携強化にむけて、東アジアや世界の木簡・文字資料に関する字形データを集積している国内外の連携各機関と協議を進め、連携のフレームワーク構築に取り組んできました。その成果として、2020年10月に、機関や国境の壁を越えた連携検索ポータルサイト「史的文字データベース連携システム」(<https://mojiportal.nabunken.go.jp/>)を多言語(英・繁体中・簡体中・韓)にて公開しました。

本連携サイトで検索対象となる字形データは、連携各機関が専門研究を進める上で集積したもので、地域は中国・日本を覆い、時代は紀元前後から19世紀におよびます。データ総数はおよそ150万件に達し、東アジア漢字文化圏で最大の文字コレクションです。

本連携サイトでは、相互運用性が確保された国際オープンデータ規格IIIF (International Image Interoperability Framework)を採用し、画像表示における高い汎用性・操作性を実現しました。また、本サイトを通じて発信される情報は、すべてオープンデータを原則としており、ユーザは出典を明記す

[史的文字データベース連携検索システム](#)



史的文字データベース連携検索システム

るだけで自由にデータを二次利用できます。

本プロジェクトでは、オープンデータ環境を前提とした条件のもと、なるべく多くの組織・機関の参加を仰ぐことで、フレキシブルな連携検索用ポータルサイトを目指しました。この連携の基本理念およびデータ形式はサイト上で公開しています。

さらに国際的な利便性向上のため、日本・中国・台湾からそれぞれの言語で検索しても同様の結果が表示されるように、異体字処理機能を実装しています。例えば、簡体字体「县」を入力した場合、検索結果には常用字体「県」と繁体字体「縣」のデータが表示されます。このような本サイトの諸機能は、連携機関の協力により開発したもので、システム設計書とともにサイト上で公開(日本語・英語)し、アジア圏だけでなく、欧米圏の機関・データ連携にむけて、積極的な情報公開に努めています。

本サイトの公開は、人文学の研究基盤を一層強化するだけでなく、文字のもつ多様な魅力を広く社会一般に示すものになると確信しています。今後は、国際的な連携の拡大、検索対象となる字形の質・量の拡張を図るとともに、サイト機能の多様化・高度化に挑み、学術資源としての文字画像データの有用性を発信していきます。

ぜひ一度サイトにアクセスいただき、文字の歴史に触れてください。(都城発掘調査部 畑野 吉則)



「国」字の検索結果一覧